

自 己 評 価 表

教育方針	人格の完成を目指し、国家及び社会の有為な形成者として、文化の創造と発展に寄与する人間を育成する。	重点目標	確かな学力と豊かな心を育て、社会に役立つ力を身に付けさせる教育の推進
-------------	--	-------------	------------------------------------

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	教科指導の充実	国・数・英の3教科については習熟度別授業とし、授業に熱心に取り組む生徒が90%以上となることを目指す。 A:90%以上 B:89~80% C:79~70% D:69~60% E:60%未満	B	生徒にとって「授業がよく分かる」の項目が93%で、「授業に熱心に取り組んでいる」の項目が85%であり、積極的に授業に取り組んでいるようである。	国・数・英における習熟度別授業が効果的に行われた。今後も基礎学力の定着を目指し、支援員の協力も得て、生徒一人一人にきめ細やかな指導をすることで、授業に熱心に取り組む生徒が90%以上となることを目指す。
	読書指導の充実	授業やホームルーム活動などでの図書館利用回数や、図書に触れる機会を増やす。また、蔵書に関する情報提供を積極的に行う。図書貸出冊数一人当たり年間3冊以上を目指す。	C	「読書の習慣が身に付いている」の項目が48%で昨年度より9ポイント低下している。授業での図書館利用回数は12回であった。一人当たりの貸出冊数は2.4冊という結果で目標を達成することができなかった。	図書館利用を更に推進するため、蔵書に関する情報提供を積極的に行う。また、興味を引きやすい図書の選定と購入に努める。また、朝読書の時間の充実を検討している。
	自主学習の充実	学習の動機付けと適切な課題を与えとともに、学習支援アプリを活用することで、一日120分以上の自主学習時間を確保させる。 A:120分以上 B:119~100分 C:99~80分 D:79~60分 E:60分未満	B	「中間考査や期末考査の前によく勉強している」と答えた生徒が60%で、家庭学習時間調査では考査発表前が86分、発表後は147分であった。少しずつだが普段から積極的に学習する生徒が増えてきていると思われる。	学習支援アプリ等を利用して自主学習の習慣を身に付けさせるには、今後も継続的な取組が必要である。来年度は生徒一人一人にパソコンが支給される予定であるが、教員の更なるスキルの向上を目指す。
	アクティブ・ラーニングの充実	ICT機器を活用し、生徒の主体性を重視した学習活動を更に増やし、学習意欲が高まるよう授業改善を図る。また、校内研修の充実を図るとともに、他校の公開授業などにも、積極的に参加する。	B	多くの教科でICT機器を活用しながら、主体的、対話的で深い学びに向けた授業が行われている。また、複数回にわたり外部講師を招いたICT機器の校内研修の実施や他校の公開授業への参加により、教員の技能も少しずつ向上している。	引き続き、ICT機器を活用し、アクティブ・ラーニング型授業を実施してもらうよう、全ての教員に呼び掛けていく。また次年度についても外部講師を活用した校内研修を実施するとともに、他校の公開授業にも参加していく。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	基本的な生活習慣の確立に努め、全校での出席率97%以上を目指す。 A:97%以上 B:96~93% C:92~89% D:88~85% E:85%未満	A	全校の出席率97.4%で目標は達成できたが、1年生については他学年に比べ遅刻・欠席が多い。今後も根気強く指導していきたい。	1年生については、中学校からの問題が改善されていないようである。精神的・身体的な問題を抱えている生徒もいるので、よりきめ細やかな指導を進めていきたい。
	規範意識の育成	規範意識を高め、問題行動0件を目指す。	A	大きな問題もなく、問題行動も0件であった。	来年度も問題行動0件を維持したい。
	特別活動の活性化	部活動・学校行事・委員会活動等において、生徒の充実度90%以上になることを目指す。 A:90%以上 B:89~85% C:84~80% D:79~75% E:75%未満	B	学校行事や地域行事への参加については90%を超えているが、部活動・委員会活動については80%を切っている。より充実した活動ができるよう工夫が必要である。	学校行事については、来年度も生徒主体で活動させたい。部活動については、指導体制も含め考えていく必要がある。また、本校との連携も考えていきたい。
	交通安全意識の高揚	本年度指定を受けた「サイクリング事業」に主体的に取り組ませ、サイクリングの楽しさを実感させる。	B	本年度は一部の生徒にサイクリングに参加してもらった。参加した生徒は意欲的に活動しサイクリングの楽しさを実感するとともに、交通安全意識を高揚させたようである。	一部の生徒だけでなく、できれば全校生徒に年に1回はサイクリングを体験できるよう立案し、交通安全意識の高揚につなげたい。

人権教育	人権委員会活動の充実	地域機関や中学校と連携し、人権委員の学びの深化を目指す。また、人権委員の活動として年間11回の人権デーに取り組む。 A:11回以上 B:10~9回 C:8~7回 D:6~5回 E:5回未満	A	今年度は県外研修が実施できなかったが、それに代わるシトラスリボン・プロジェクトに中高連携して取り組み、各校の文化祭でも報告することができた。また、予定していた11回の人権デーも無事実施することができた。	コロナ禍の中、自粛になった行事もあったが、その結果として中学生の人権委員会と連携した活動が充実した1年となった。さらに、この連携を深めていきたい。
	充実した人権教育の実施	人権・同和教育の意識調査の実施。人権・同和教育ホームルーム活動の実施年4回。人権・同和教育講演会実施1回、岩松福祉会館での報告1回を目指す。	A	年4回の人権・同和教育ホームルーム活動を実施できたことにより、活動内容や学習内容が充実したものとなった。地域の方への聞き取りなども実施できた。	生徒にとって、外部の方の話を聞くことがいかに大切であるかを実感することができた。来年度も地域の方へのインタビューや人権・同和教育講演会等の実施を積極的に行いたい。
	情報モラル教育の充実	生徒に携帯電話やインターネットの適切な利用法を理解させ、SNS利用等によるトラブル0件を目指す。 A:0件 B:1~2件 C:3~4件 D:5~8件 E:9件以上	B	様々な場面での指導により、SNS利用等におけるトラブルは1件のみであった。	1年生におけるのトラブルが発生しているため、次年度は、まず1年生に重点をおいて指導していきたい。
進路指導	キャリア教育の推進	課題解決学習への取組を通して、「総合的な探究(学習)の時間」における満足度100%を目指す。 A:100% B:99~90% C:89~70% D:69~50% E:50%未満	C	新型コロナの影響で、計画通りには実践できていない部分もあるが、1年生では地域における問題点をあげ、2年生では、その改善のために何ができるかを考えることで、地域にも貢献できた。	それぞれの学年において、前年度の活動を引き継ぎ、特に3年生では課題解決のための実践としていきたい。
	検定資格取得指導の充実	資格取得を通して得られた達成感や自信を学習活動や進路実現に役立てられるよう、各種の資格取得を奨励し授業や補習授業等の充実を図る。	B	3年生の資格取得率は96.6%で昨年度よりも1.7ポイント増加するだけでなく、上位級への合格者も増え、高い水準を維持できている。しかしながら、生徒の意欲や主体的な取組の部分では、3.7ポイントの減少となった。	検定取得指導の強化はもちろんのこと、それに対する生徒のやる気や主体性を育てる指導の工夫や充実を図りたい。
	個に応じた進路指導の充実	生徒との面談を充実させ、一人一人の適性に合ったきめ細やかな進路指導を通して、第一志望の合格率100%を目指す。 A:100% B:99~90% C:89~80% D:79~70% E:70%未満	B	3年生の第一志望合格率は93.1%で、目標達成とは至らなかった。進路についての「情報提供・相談」の項目、「補習や個別指導」の項目はそれぞれ昨年度よりも8.3ポイント、20.5ポイント上昇しており、学校全体として、個に応じたきめ細やかな進路指導が充実してきている。	コロナ禍の中、状況を見極めながら進路行事の充実に努めていきたい。また、生徒一人一人の適性に合った進路実現を果たすためにも、生徒とのきめ細かな面談を更に充実させていきたい。
学校経営	学校安全体制の強化	危機管理マニュアルがより使いやすくなるよう内容を点検する。また、高校生防災士を増やし校内防災体制の強化を図るとともに、地域との連携を密にし、災害発生時の協力体制を強化する。	B	高校生防災士2名、教職員防災士11名が中心となり、自治会と連携した防災避難訓練をはじめ、3回の訓練を実施し、防災食試食体験なども行った。危機管理マニュアルについては内容の精選に時間がかかる。	次年度は、今年度より規模の大きい地元高田地区の防災総合避難訓練の一環として、日曜日を開校日として訓練を実施する予定である。これまで以上に地域と連携し災害発生時の協力体制を強化していく。
	地域との結びつきを大切に、地域について学ぶ学習の充実	地域の産業、社会、自然、文化、歴史等を調査・研究したり学んだりする機会を年間10回以上設定し、地域との結びつきを強化する。また、地域貢献を通して生徒の社会性や自己肯定感を高める取組を継続的に実施する。	A	今年度は多くのイベントが中止となったが、総合的な探究の時間を中心に、宇和島市、高齢者福祉施設、幼稚園、公民館、自治会、中学校等との交流を延べ53回実施することができた。生徒の満足度は昨年度から3ポイントアップの96%と、高水準を維持している。	今後も引き続き地域と連携する場面を多く設定することで、地域の産業、社会、自然、歴史等について学び、情報収集力、整理・分析力、表現力の更なる向上を図る。また、地域貢献を通して、生徒の社会性や自己肯定感を高める。
	広報活動の充実による開かれた学校づくり	「津高タイムズ」やホームページ、配布プリントを活用し、生徒の活動の様子や同窓会補助事業のお知らせをしていく。ホームページは、平日アクセス数平均250回/日以上を目指す。 A:250回以上 B:249~200回 C:199~150回 D:149~100回 E:100回未満	A	「津高タイムズ」やホームページのブログアップ、プレスリリース、体験入学、学校説明会の実施により幅広く広報し、学校の魅力紹介に努めた。ホームページの2月までの平均アクセス数は588回/日であり昨年度から368回/日増加している。	来年度から分校となるが、今年度の広報活動を引き続き行うとともに、本校となる宇和島東高校や地元の津島中学校との連携からも広報活動の幅を広げていきたい。

業務改善	適切な勤務時間	業務の効率化を図ることや、職員との面談を通して、できるだけ勤務時間内で業務を遂行してもらい、教職員の勤務時間を守る。	B	2月までの勤務時間外在校等時間の月平均は一人当たり33時間という結果で、概ね適切であった。	特定の職員が一月に45時間を超えることがあるため、面談や声掛け、また、業務の効率化の工夫をしていきたい。
	職場環境の整備	面接や事業・制度に関する情報提供等を行ない、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。	B	体調不良等による欠勤が目立つ者や、日常の言動や表情から心配な点がみられる者もなく、心身の状態は概ね良好であると思われる。	引き続き、普段から声掛けをしっかりと行い、言動や表情等のささいな変化を見逃さないよう関わりを持っていきたい。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。